

水陸萬頃

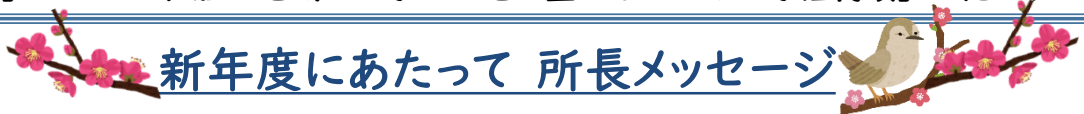
第17号

奥州農業改良普及センター TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303
 いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



※水陸萬頃とは

「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。



新年度にあたって 所長メッセージ

焼石連峰の残雪も大分少なくなってきました。間もなく「ハル」の文字が姿を現し、農作業も本格化してくるものと思います。

去年は、降霜や記録的な猛暑など、気象に振り回された1年で、栽培管理には大変御苦労されたことと存じます。

今年も気温は高めに経過し、りんごの生育も早まってきております。このような中、4月10、11日には、奥州市でも最低気温が低い日があり、今後もこのような低温が心配されることから、栽培管理等に備えていく必要があります。

本号4ページに掲載いたしました。スマートフォンで自宅に居ながらりんご園地の気温等をリアルタイムに確認できるシステムを奥州市内の園地に設置させていただきました。霜対策や栽培管理に御活用いただくようお願いいたします。

さて、今年度の定期人事異動により、5名の職員が新たに着任し、採用2年目からベテランまで総勢19名の体制で、新年度の業務を進めていくことになりました。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、街や観光地に賑わいが戻ってきたように思いますが、国際情勢等による飼料や肥料等の高騰など、農業経営には依然厳しい状況が続いております。また、食料・農業・農村基本法の改正案や関連法案の議論も本格化し、関連対策等も今後示されてくるものと思います。

普及センターといたしましては、これらの情勢も踏まえ、関係機関・団体の皆様と連携しながら、農作物の凍霜害や高温対策、スマート農機等の実証や良質米生産、堆きゅう肥などの活用による肥料費の低減や環境保全型農業の推進、稲WSCSや飼料用トウモロコシなどの活用による飼料費低減、新規就農者の確保・育成、地域計画の策定支援など、直面する課題解決を着実に進め、農業の収益性向上等に貢献できるよう取り組んでまいりますので、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

奥州農業改良普及センター
所長 柏原 一成



令和6年度活動体制

【所長(1)、課長(3)、農業普及員(10)、技師(4)、主査(1)、計19名】

所長 柏原 一成

経営指導課

技術主幹兼経営指導課長 小綿 寿志

課員 (7名)

<農業経営グループ>

上席農業普及員	阿部 洋	(総括・経営体育成・果樹)
上席農業普及員	山口 恵子	(土地利用型作物・法人・経営体育成)
農業普及員	小向 昌啓	(経営改善・野菜・経営体育成・GAP)
技師	齋藤 菜々子	(経営体育成・情報)

<畜産経営グループ>

上席農業普及員	千葉 彩	(総括・畜産・経営体育成)
農業普及員	姉帯 咲桜	(畜産・酪農・外部支援組織・経営体育成)
技師	濱野 梢	(畜産・肉用牛・飼料作物・経営体育成)

産地育成課

産地育成課長 外館 光一

課員 (4名)

上席農業普及員	中野 央子	(総括・水稻・畑作)
上席農業普及員	星 伸枝	(園芸総括・花き・GAP)
主任農業普及員	皆川 歌織	(野菜)
技師	米田 莉子	(果樹)

地域指導課

技術主幹兼地域指導課長 小田中 温美

課員 (4名)

上席農業普及員	遠藤 和歌子	(総括・地域計画・集落営農)
主査	阿部 優香	(庶務)
主任農業普及員	菅原 豊司	(新規就農)
技師	岩間 成美	(農村活性化・青年組織・野菜)

転入者の御紹介



そとだて こういち
外館 光一
産地育成課長

<前任地>
一関農業改良
普及センター



なかの ひろこ
中野 央子
上席農業普及員
担当:水稲・畑作

<前任地>
盛岡農業改良
普及センター



あべ ゆか
阿部 優香
主査
担当:庶務

<前任地>
総務部
管財課



みなかわ かおり
皆川 歌織
主任農業普及員
担当:野菜

<前任地>
岩手県立
農業大学校



まいた りこ
米田 莉子
技師
担当:果樹

<前任地>
一関農業改良
普及センター

職員一同
よろしくお願ひします!



転出者の御紹介

大変お世話になりました



氏名(職)	転出先
佐々木 洋一 (技術主幹兼産地育成課長)	岩手県立農業大学校
佐藤 亮太 (農業普及員)	大船渡農林振興センター
佐々木 絢菜 (技師)	宮古農業改良普及センター
小舘 琢磨 (主査農業普及員)	退職
安部 弘明 (主任行政専門員)	退職
畠山 克也 (主任農業普及員)	退職

農業農村指導士
たかはし やすし
高橋 康さん



御意見番！指導士の声



今年度から胆江地方農業農村指導士会の会長となりました。よろしくお願ひいたします。

指導士会では、農業関係機関との意見交換、新規就農者等への技術伝承、他地区の指導士との交流等の活動を行っております。昨年度実施した、指導士のコツを伝授する研修では、新規就農者との交流があり、大変有意義な研修会でした。今年度も計画していますので、参加者を増やしていきたいです。

肥料・資材の高騰により、農作物の価格転嫁ができない状況が続いており、農業経営はとても厳しい状況です。そのような状況下でも、安定した農家所得と安全・安心を届ける持続可能な農業を目指していきたいと思ひます。



農業農村指導士の期間満了・認定、青年農業士認定 奥州市、金ヶ崎町表敬訪問を行いました！



青年農業士認定
小原堅太氏

松本義文氏

菅原信一氏

2月13日に金ヶ崎町役場を訪問し、小原堅太氏の青年農業士の認定と松本義文氏と菅原信一氏の農業農村指導士の期間満了について金ヶ崎町の高橋町長に報告を行いました。松本氏、菅原氏は期間満了後も地域の重要な担い手として引き続き活動される予定です。小原氏は指導士との交流による更なる活躍が期待されます。

また、3月6日には奥州市役所を訪問し、保科俊徳氏の農業農村指導士の認定について報告し、農業情勢について意見交換を行いました。保科氏は経営規模の拡大や法人化に取り組まれており、今後の経営発展が期待されます。



農業農村指導士認定
保科俊徳氏



りんごの安定生産に向けたリアルタイム気象データの活用

近年、りんご栽培では凍霜害や高温の影響を受け、減収・品質低下が見られます。胆江地方農林業振興協議会では、気象に応じた適切な管理によるりんごの安定生産を目的として、リアルタイムで気象データが把握できる気象センサーを管内4地点に設置しました（写真）。

気象データは3月1日から利用可能となり、りんご生産者は、早速スマートフォンで気温等のデータを確認できるように設定を行い、凍霜害対策等に活用しています！



農福連携に取り組んでみませんか

農福連携とは農業と福祉が連携し、障がい者などが適性に応じた農作業に従事することです。農業にとっては労働力の確保、福祉にとっては障がい者の就労促進等、双方にとってメリットがあります。管内でも取り組んでいる農業者の方もいます。今後、どのような取組かを知っていただく体験会も計画していますので、興味のある方は普及センターまでご連絡下さい。

4月15日から6月15日は春の農作業安全月間です

岩手県農作業安全対策協議会の本年度農作業安全スローガン

「ひと休み 急がば回れ 農作業 ゆとり忘れず 安全管理」

今年は野焼きによる火災が全県で多く発生しています。空気が乾燥している日や風の強い日は「野焼きをしない、火から離れて他の作業しない」等注意してください。ほかに、ほ場周辺の危険箇所の確認、危険箇所の改善、シートベルトとヘルメットの着用などを徹底し、農作業安全に取り組んでください。